

PRESENT

アンケートに答えてプレゼントをGETしよう!

応募期間
12/1~12/31

A 蕎麦 大さわ
そばがきぐるぐる無料券

3名様

※券をご利用の際は、お食事をご注文ください

2・3ページで紹介した蕎麦 大さわの「そばがきぐるぐる無料券」を3名様にプレゼント!

B 秩父庵 玉木家
彩りちちぶぽてと(3個入り)

2名様

8ページで紹介した秩父庵 玉木屋の「彩りちちぶぽてと(3個入り)」を2名様にプレゼント!

C パーラー コイズミ
フルーツパフェ無料券

2名様

※券をご利用の際は、お食事をご注文ください

9ページで紹介したパーラー コイズミの「フルーツパフェ無料券」を2名様にプレゼント!

秩父鉄道ホームページ内の応募フォームからお申し込みください。

秩父鉄道 検索 または



定期購読のご案内

「PALETTE」を毎月ご希望の方に定期購読をご案内しています。詳しいお申し込み方法については裏表紙をご覧ください。

秩父鉄道 企画部
☎048-523-3313
🕒平日9:00~17:00

編集後記

今回取材で、初めてそば打ちを体験しました。季節によって入れる水の量の違いなど、作る難しさを実感。取材先でも感じたそば打ちの奥の深さを改めて知る事ができました。いびつだけど自分で打った「挽きたて」「打ちたて」「茹でたて」の「三たて蕎麦」は本当に美味しかった!次号はスタミナ満点の料理がたくさん!ぜひお付き合いいただければと思います。



ナチュラルファームシティ
農園ホテル

展望レストラン秩父路
12/4~12/28(土・日を除く)

市内が一望! ランチ11:30~14:30
ランチバイキング 大人1944円

夜景が最高! ディナー17:00~20:30
ディナーバイキング 大人2700円

今年最後の感謝企画!いずれも10%割引! ご利用の際には本冊子をお持ちください

☎0494-22-2000 Fax0494-23-2000
秩父市大宮5911-1 <http://www.farm-city.co.jp>

満天の星と雲海の宿
いいいの村
ヘリテイジ **美の山**

秩父の大自然で
「ふたご座流星群」に大感動!
12/14@限定、ホテルから流れ星を堪能しましょう。

ふたご座流星群鑑賞プラン(1泊2食)
平日 10,000円~(税別)
皆野駅・西武秩父駅から送迎あり(予約制)

☎0494-62-4355
秩父郡皆野町皆野3415
いいいの村ヘリテイジ 美の山

ラグビーワールドカップ2019™
熊谷へラグビーを見に行こう!

2019年 埼玉・熊谷ラグビー場試合日程
9月24日(火) ロシア v サモア
9月29日(日) ジョージア v ウルグアイ
10月9日(水) アルゼンチン v アメリカ

一般先着販売
2019/1/19(土)~

tickets.rugbyworldcup.com ラグビーワールドカップ2019™
日本大会公式チケットサイト ID登録受付中!!

熊谷市 埼玉県・熊谷市

きりり スロー

第14回

沿線でかがやきつづける方にインタビュー!
木村 和恵さん
(花織人・銘仙語り部)

山野の草花を自然の感性で生ける花織人(はなおりびと)であり、2000枚以上の秩父銘仙を収集・保存してきた、銘仙語り部の木村和恵さんにお話を伺いました。



郷里のものを大切に
残していくのが自分の使命

「私ね、銘仙は好きでも嫌いでもないの」と開口一番に語った木村さん。2000枚以上にのぼる銘仙を収集してきたというが、一体どういうことだろうか。
「生まれも育ちも秩父の私にとって、銘仙はとても身近な物。昔は気にも留めていなかった。でも20年近く前に、多くの銘仙が不要なものとして捨てられていた。現美を見た時に、ふと「祖先が築き上げてきたものを評価せず残さないでいて良いものだろうか」と思って。いわば使命感から集め始めたようなものなの」
骨董品商や地元の知り合いのツテを頼り、あらゆる年代、柄の

銘仙を多くの私財を投じて取り寄せた。
「不思議なもので、銘仙たちが『あの人のところに行けば大切にしてもらえよ』と自分たちのネットワークを使って来てくれたんじゃないかなって思う時があるの。遠く離れた地方から「母が持たせてくれた秩父の銘仙です」と送られてきたりね」と笑う。

知れば知るほど奥深い 秩父銘仙の世界

お洒落な普段着として大正から昭和初期に流行した銘仙の歴史をひも解くと、当時の人々の思いに触れることが出来るという。
「銘仙が大量生産される前までは、絹織物は贅沢品で人々の憧れの的でした。銘仙は、元々は高

級な絹織物では使えない安価な繭を使って仕立てたのが始まり。見栄えを良くするために柄をあらわし、それが大正末期から昭和にかけて、花柄や幾何学模様など大胆で斬新な文様に発展したと言われています。当時、銀座や浅草、繁華街で流行の銘仙を着こなした女性の姿が見られたけれど、今当時の写真を見てもとっても素敵。戦争が始まると『非国民』と言われるのを恐れて、華やかな銘仙は着られなくなりました。秩父銘仙は着られなくなった銘仙は捨てられず、筆筒の奥で大切にしまわれていたんでしょうね」
関東で数ある銘仙の中でも、秩父銘仙は仮織りした経糸に染色を施してから織る「ほくし捺染」といわれる特殊な技法で作られ、

玉虫色に光るのが特徴だ。今では使用禁止の染料が使われている場合もあり、コバルトブルーなど現在の私たちが見ても思わずハッとさせる色使いだ。毒素を含むため、肉にも虫食いの難から逃れたものも。文様や色彩に、当時の時代背景が如実に写し出されるのが興味深い。
大事に保管してくれるのなら手放す時が来ても本望だと思ふ

良くしたい」という思いだ。
現在収集した銘仙のうち、500枚は埼玉県立歴史と民俗の博物館に委託し、学芸員による調査を進めている。
「4年前に脳梗塞で倒れてから、『このコたち』の行き先を決めておかないと、どうしたらちゃんとして残せるかずっと考えているの。私にとってはどんな銘仙も大切なものだから。調査・分類にはかなりの時間がかかるようだけれど、いずれ皆さんに見ていただけたらいいな。いつかいらして未来を見つめる。真剣に、時にユーモアたっぷりに銘仙のことを語ってくれた木村さん。冒頭の言葉は、全ての銘仙を分け隔てなく大切に思う、木村さん流の愛の言葉なのだ。

秩父銘仙に関わる「絹市」については、8ページで紹介しています